

OCHA-SDGs 学生委員会

2023 年度 活動報告書



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

目次

I. OCHA-SDGs 学生委員会とは	1
II. 2023 年度の活動	2
1. 株式会社セブン&アイ・ホールディングスと連携した SDGs 推進活動	
2. 生協食堂における OchaEco 弁当販売及び夕食テイクアウト	
3. 生協購買部にて昆虫食の委託販売	
4. OCHA-SDGs 勉強会「私たちのごみはどこに行くんだろう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」開催	
5. クールアースフェア出展	
6. ラブ・プラスチック参加	
7. 給水マップ制作	
8. 夏季活動報告会	
9. 德音祭出展	
10. フードドライブ開催	
11. 生協とプラントベースドフードメニュー開発・販売	
12. OCHA-SDGs カレンダーの制作	
13. LGBTQ 居場所づくりのサポート	
14. OCHA-SDGs 学生委員会・お茶大版気候市民会議 ステッカー等作成	
III. 付録（お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所の概要）	15
1. SDGs とは	
2. 研究所設立の経緯	
3. 研究所の組織構成	
4. 研究所のミッション	

I. OCHA-SDGs 学生委員会とは

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所（2022 年 4 月発足）の学生組織として立ち上げられた。本学生委員会では、学生が主体となり、「生活者起点」をテーマにして環境・食・言語などの幅広い分野に渡って様々なプロジェクトを立ち上げ、SDGs に繋がるアクションを積極的に起こしている。本学の附属学校園との「縦の連携」や企業、官公庁との連携を活かした、他大学には真似できない、OCHA-SDGs 独自の活動を展開している。



OCHA-SDG 学生委員について

II. 2023 年度の活動

2022 年度に発足した OCHA-SDGs 学生委員会は、4 月の幹部交代式を経て、2023 年度の活動をスタートさせた。昨年度組織化された Education for sustainable development (ESD) 班、食班、環境班及び広報部に、味覚評価部や他大学連携班といった新たなプロジェクトベースの組織が加わり、活発に活動した*。以下に具体的な活動内容を示す。



幹部交代式の様子

*2024 年度以降はプロジェクト制に移行し、活動を継続している。

1. 株式会社セブン&アイ・ホールディングスと連携した SDGs 推進活動

① ワイガヤ会

お茶の水女子大学と株式会社セブン&アイ・ホールディングス（以下セブン&アイ）は、2022 年 9 月に「SDGs に関する包括的連携協力に係る協定書」を締結した。協定の連携事項として、教育・人材育成の相互支援が掲げられていることから、セブン&アイのメンバーと OCHA-SDGs 学生委員が SDGs について自由に議論する「ワイガヤ会」が開催された（2023 年度実績：計 8 回開催）。まずは、学生委員が SDGs に関連する様々な問題について、どんなことを考えているのか、どうなったらいいと思っているのかを聞き、それを実現

させるためにはどうしたらいいか考えることに重点を置いてディスカッションを繰り返した。セブン&アイのメンバー、学生委員の共通する課題として、自分たちが取り組んでいる「SDGs 推進活動」を社内、学内の人に知ってもらうことが挙げられた。この実現のために、セブン&アイから東京ビエンナーレへの参加 (P.8)、セブン&アイ



2023 年 11 月 17 日ワイガヤ会の様子

HP「賢者のレシピ」へのメニュー提案 (P.3) 等の企画が提示された。また、9 月以降は、株式会社セブン&アイ・フードシステムズ（以下、7FS）の社員も本会に加わり、メイン事業のデニーズで行っている mottECO（飲食店でのフードロス削減するため、食べ残しの持ち帰りを促す活動）や、食品リサイクルループ（デニーズ店舗で排出されるコーヒー豆かすを乳牛の飼料とし、その乳牛の生乳を料理に使う取り組み）についての紹介、実施にいたるまでに苦労した点、もっと広めるための課題点の紹介があった。mottECO やフードロス削減についてより深く議論するため、伊藤研修センターでの見学会が提案された (PP.4-5)。

② 賢者のレシピ考案

セブンプレミアムの運営するレシピサイト「賢者のレシピ」では、「たいせつにつくる、たいせつに食べる」をテーマに、おいしいだけでなく、食材を育てる人も、調理する人も、食べる人もみんなが **HAPPY** になることを目指して、時短、フードロス削減のレシピを掲載している。毎月3品ずつ更新され、料理人のタサン志麻氏考案のレシピや、セブン&アイグループ企業の考案したレシピも掲載されている。OCHA-SDGs 学生委員が考案したレシピが、2024年1月と2月に掲載された。

レシピのコンセプト、味、工程はすべて学生が考案し、研究所事務局がセブン&アイとの連絡の中継点となり、準備を進めた。2024年1月5日に3品、2月1日に3品、合計6品が公開された。



2024年1月・2月に公開されたメニュー（写真）

2024年1月・2月に公開されたメニュー

1月公開メニュー	ふわっと出汁香る！白菜とお豆腐のコールスロー風 フライパンで作る！餅っとちぎりばん 包丁いらず、電子レンジで簡単サバゲッティ
2月公開メニュー	大豆衣のポテサラコロケ アレンジ無限！お手軽ケーキサレ オートミールで一口ピザ風

また、レシピ公開に合わせて、賢者のレシピサイトだけでなく、セブン&アイのサステナビリティ活動を紹介するページにも掲載された。また、学生委員がレシピに込めた想いを紹介しながら賢者のレシピを **PR** する動画が作成され、公開された。学生のインタビューやレシピの調理にも焦点が当てられ、充実した内容となった。



セブン&アイのサステナビリティ活動レポートに掲載された画像

セブン&アイ社のサステナビリティ活動レポート URL :

https://www.7andi.com/sustainability/statement/action/other_20240308_2/index.html



QR コード

③ 伊藤研修センター見学会

環境省令和5年度モデル事業 お茶の水女子大学×セブン&アイ・フードシステムズ連携研究「企業のパートナーシップによる環境推進～食ロス削減：mottECO 事業～」の一環として、2024年2月16日（金）に新横浜にあるセブン&アイ伊藤研修センターを訪問した。当日は、OCHA-SDGs 学生委員9名、事務局員2名、太田機構長の12名が参加した。

講師の7FS 中上氏は、7FS グループ企業の環境活動を熟知するだけでなく、環境カウンセラーとしても活動されており、SDGs や ECO についても詳しい話を聞くことができた。

参加した学生からは、セブン&アイの取り組みを知るだけでなく、背景にある企業理念や方針を知ることによって、自分自身の活動にもつながる考え方を学ぶことができた、といった感想があった。セブン&アイの取り組み、環境問題、セブン&アイの歴史を学ぶことにより多くの学びを得た。



講義の様子



食堂のスタッフへのフードロスに関するインタビュー



集合写真

参加した学生の感想（一部）

SDGs に関して、セブン&アイさんが行ってきた事例だけでなく、その背景となる理念や方針といったことまで教えて頂き、普段自分が行っている活動に繋がる考え方を知ることが出来ました。環境問題に対する取り組みをコストではなく投資として捉えるという姿勢や、社会へどう影響するのかを考慮にいたれたアプローチの仕方など、企業ならではの方策を学ぶ貴重な体験になったと感じます。お客さまや取引先、社員に対しても常に誠実であろうとするという心構えは、ともすると一方的に捉えられてしまいがちな SDGs への取り組みを、どう伝え普及させていくのか考える上で非常に重要なのではないかと考えました。SDGs への向き合い方は、その主体の立場や見方によって様々な形があると思うのですが、このように普段とは違う着眼点を学ぶことは、改めて自分自身の在り方を考え直す良い機会になったと思います。

日本の大きな企業として SDGs に貢献する姿勢を学ぶことができました。普段私が考えているような生活者目線とは違った切り口があり、会社の利益も考える必要があるとわかりました。その中で mottECO はそれ自体は利益を生み出さない取り組みで容器を作るお金もかかってしまいます。私は大学の授業でサステナビリティと利益が結びつかないことが問題視されていると学びました。直近の利益にはならなくとも長期的に考えて地球の利益になることも大事ですが、サステナビリティの取り組みが直接利益に繋がるようになることでもっと多くの企業が参加できると考えました。授業や学生委員会の活動を通して自分にできる SDGs について考えてきましたがその答えのひとつが見つかった気がします。まず簡単にできることとしてサステナビリティへの取り組みが利益に直結するような社会を作るように情報を発信したり、取り組んでいる企業を応援することです。小さな事かもしれませんが SDGs への取り組みが評価されることに少しでも貢献できれば良いと思います。

2. 生協食堂における OchaEco 弁当販売及び夕食テイクアウト

お茶の水女子大学生生活協同組合食堂部（以下、生協食堂）と本研究所研究員である赤松利恵教授が協働し、食品ロス削減のため OchaEco 弁当の販売を行った。OchaEco 弁当は、昼食の売れ残りをお弁当に詰めて、時間を限定して販売するものである。本取り組みは研究の一環として行い、研究所の構成員が指導する学生委員が広報活動やデータ収集・解析等を担当した。本取り組みは結果をまとめ、学術論文として 2024 年度中に投稿を予定している。



OchaEco 弁当周知のポスター

3. 生協購買部にて昆虫食の委託販売

OCHA-SDGs 学生委員会（食班）の企画により、生協購買部にてコオロギパウダーを使った商品を期間限定で販売した。ムーンショット型農林水産研究開発事業支援企画を通し昆虫食を推進する由良敬教授（本学理学部教授）指導のもと、本学生協購買部と連携し開催した。未来の食の選択肢の 1 つにコオロギ食を提案することを狙い、コオロギパウダーの入った生活者に身近なスナック菓子を委託販売した。本企画は本学学生、教職員、保護者から大きな反響があり、準備した各種 100 個は販売期間前半のうちに売り切れ、追加発注が必要となる等好評を博した。

開催概要

期間	6月12日（月）～23日（金）の月曜日～金曜日（平日のみ）
時間帯	10：30～17：00
場所	生協購買部（1階）
取り扱い商品 ※	C.TRIA プロテインバー ココナッツ・ビターチョコ（たんぱく質 15.6g）¥175/本 C.TRIA コーンスナック うま塩・たこ焼き ¥98/袋 （株式会社グリラス 提供）

※甲殻類アレルギー所有者に対しては摂取を控えるよう注意喚起した。

本限定販売に伴い、OCHA-SDGs 学生委員会食班が販促動画を作成し、事務局が研究所 SNS を通した広報活動を行った。動画は附属高校の家庭科の授業でも紹介され、附属高校生及び保護者の購入に繋がった。



作成した動画のサムネイル（本研究所公式 YouTube より）

4. OCHA-SDGs 勉強会「私たちのごみはどこに行くんだらう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」開催

2023年7月13日に2023年度第1回OCHA-SDGs勉強会「私たちのごみはどこに行くんだらう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」が開催された。この勉強会は学生委員会が企画し、文京お届け講座（※）に申し込み、実現した。講師の文京区資源環境部リサイクル清掃課リサイクル推進係加藤様より、文京区の清掃・リサイクルの現状について話を伺った後、参加者のディスカッションを通して、私たちが出すごみとの向き合い方について考えた。

※文京お届け講座：文京区民を中心とする団体・グループの学習会に区の職員等が出向き、区の取り組みや職務に関する専門知識を生かした内容をお話するもの



5. クールアースフェア出展

2023年8月4日に文京区役所にて、OCHA-SDGs 学生委員会が『クールアースフェア』に出展した。

クールアースフェアは、文京区が例年開催する地球温暖化対策をテーマにしたイベントであり、例年、各参加団体より、環境負荷に配慮した事業の紹介や、一般住民への普及啓発を意図した展示が行われる。

2023年度は、14の企業・団体に加え、区内4大学（お茶の水女子大学、東京大学、東洋大学、文京学院大学）が初めて出展した。本学からはOCHA-SDGs 学生委員会が参加し、学生活動における他大学連携先の東京大学、東洋大学と出展内容について話し合いながら、各大学独自の展示を行った。OCHA-SDGs 学生委員会は、生活者の日常的配慮で削減可能なCO₂（温室効果ガス）排出量についての情報をカードにまとめ模造紙にて発表した。また、来場者による実践例の寄せ書きを受け付けるインタラ



文京区 HP に掲載されたイベントポスター



学生委員の作成した展示物

クティブな展示品「クールアースどけい」を展示したところ、模造紙いっぱいの寄せ書きが集まった。一般市民の生活に裁断のない省エネ行動が喚起される本取組には、学生委員の地域と一体となった環境正義への追求心が窺われる。



学生委員が作成し会場で配布した CO₂（温室効果ガス）削減に関するパンフレット

6. ラブ・プラスチック参加

OCHA-SDGs 学生委員がラブ＝プラスチックワークショップに参加した。

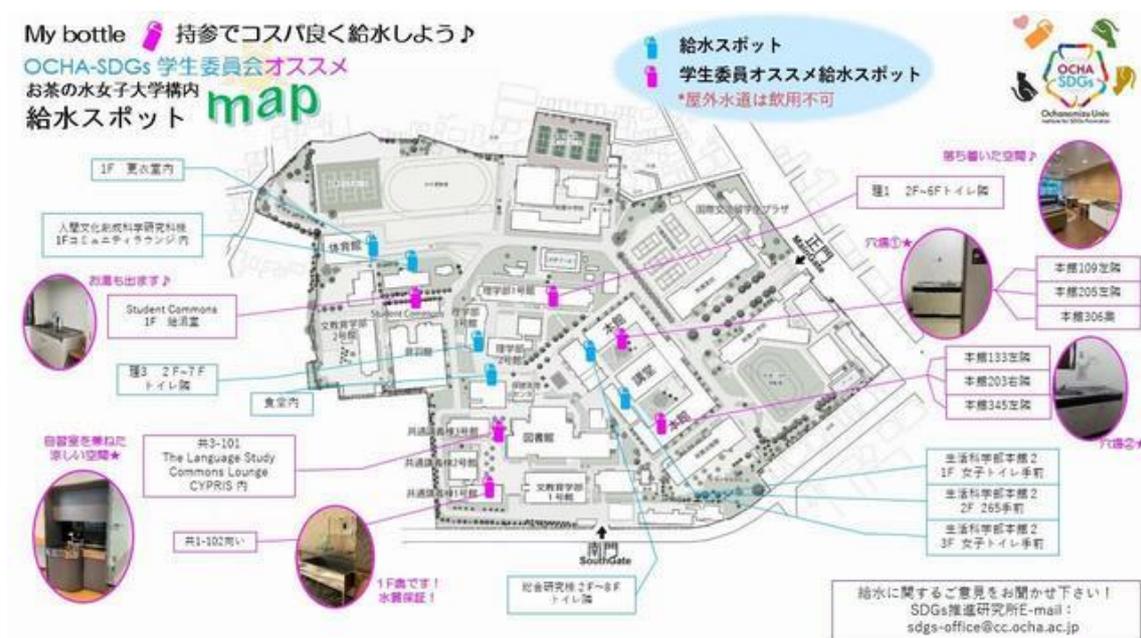
ラブ＝プラスチックワークショップは、東京都（文京区・千代田区・台東区・中央区）を舞台にした国際芸術祭「東京ビエンナーレ 2023」における「超分別ゴミ箱 2023 プロジェクト」の一環である。都立工芸高校の生徒及び藤幡正樹先生（アーティスト、東京藝術大学名誉教授）の協働活動として、8月19（土）、20（日）に都立工芸高校にて開催された。2023年のプラスチックの使用状況を記録・収集し、それらを最終的にモニュメント作品にすることを目的とした。OCHA-SDGs 学生委員は、一般家庭のプラスチックゴミ1つ1つに触れ、色や触感を踏まえて分別を行った。ゴミをゴミとしてではなくアートの部品として考えることで、ゴミの量が増加する消費社会において昨今いっそう求められるリユース・リサイクルの視点を養った。



イベントポスター

7. 給水マップ制作

安心して使用できる水道水設備のありかを示す給水マップを OCHA-SDGs 学生委員会と本研究所事務局員が作成し、2023年8月29日より研究所ホームページにて公開した。構内全ての水飲み場を視察し、屋内で比較的衛生面に心配のない給水所 29カ所（青枠）を選定した。その中で居心地よく過ごせる 10カ所を推奨スポットとして表記している（紅枠）。天然資源である水道水での水分補給を促進することで、プラスチック容器を用いた飲料の購入に頼らないマイボトル利用を推奨している。また、気候変動の影響で激化する猛暑から健康を守る観点として、熱中症や脱水症対策に向けたこまめな水分補給の啓発が企図されている。酷暑の中、テキストやPCに加え飲料を持ち運ぶ肉体的負担に疲弊する学生の声を代表し、水分補給の場を確保したいとの有志の学生委員と脱プラ運動に共鳴した環境班が協働し立案した。



作成された給水マップ

本給水マップにて情報を列挙するにあたり、屋外と屋内一部の給水所は錆び・温度、スペースの汚れ等の問題から除外した。学生・教職員とも所属により日ごろ使用する建物が限られるため、本給水マップにより、課外活動時や休日を含むあらゆる時間帯に、給水所が分け隔てなく活用されることが期待される。

8. 夏季活動報告会

2023年9月11～13日、オンラインにて、OCHA-SDGs 学生委員の夏季活動報告会が行われた。学生委員が夏休み中に、地元等で体感したSDGsを1日4～5名がパワーポイントで発表し、その後、参加者が3グループに分かれ、発表した内容について議論した。福島県会津地方の若者が行っている地方活性化につながる祭り、鎌倉市が慶應大学と行っているサーキュラーエコノミーの取組、愛知県名古屋市のイオンモールの環境保全、旅行先ホテルのアメニティについてなど、学生委員同士で様々な気づきを共有した。

9. 徽音祭出展

2023年11月11日（土）及び12日（日）本館124室にて、OCHA-SDGs 学生委員会と徽音祭実行委員がSDGsをテーマに合同出展した。ESD班が毎月制作したOCHA-SDGs カレンダー、環境班が夏に仕上げた学内水道水マップの掲示をはじめ、OCHA-SDGs 学生委員による数々のアイデアが持ち寄られた以下の催し物を行った。

<ワークショップ>

- ・蜜蝋ラップづくり
- ・キャンパス内SDGsクイズラリーと景品の配布

<販売>

- ・アップサイクルで出来た雑貨とアクセサリ商品（sobolon等提供）
- ・規格外果物を使用したグラノーラ（我楽田工房提供）
- ・コオロギスナック（株式会社グリラス提供）

蜜蝋ラップのワークショップは多くの子ども達と保護者が参加し、順番待ちが出るほど盛況であった。キャンパス内SDGsクイズラリーでは、貧困や飢餓、ジェンダーを含むあらゆる格差や、健康問題、自然破壊等の実情についてクイズを提供し、終えた参加者には景品を渡す等、多様な来場者とのコミュニケーションが活発に行われた。販売したアップサイクル商品は倫理的な消費（エシカル消費）を広めたいという有志の学生委員が「エシカルな暮らしLAB」から調達した。我楽田工房は2022年度に食班が取材活動を行った縁からグラノーラを買い取り販売した。コオロギスナックは2023年6月のコオロギフェアが盛況であったことから、同様の委託販売を依頼し再販した。このほか、ウォータースタンド株式会社から無償貸与されたウォーターサーバー（冷水・常温対応）一台を用い、来場者にコップ一杯ずつ水を提供した。シールアンケートへの協力を依頼したところ、回答者の大半が職場や学校、その他日常生活における水分補給の一選択肢に身近な給水機の利用を期待すると分かり、学内でのニーズと世間の声を照応した。

10. フードドライブ開催

昨年度に引き続き、本学の SDGs 推進活動の一環として、10 月より附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）と協働でフードドライブを実施した。本年度はセブン&アイと同時開催とせず、学生委員と各学校園が個別に連携し、より SDGs 活動を自分ごと化し、フードドライブの認知度をあげることを目的に実施することとした。

本活動により、昨年度と同程度の約 200kg の食品が収集され、NPO 法人セカンドハーベスト・ジャパンに寄付された。2024 年 1 月に開催された振り返りの会では、本学のフードドライブのキーワード「おすそ分け」や、来年度に向けての反省点が共有された。

実施概要

対象	本学・附属学校園
日時	2023 年 10 月～12 月 ※実施主体（大学・各附属学校園）により異なる
場所	各大学・附属学校園が個別に設定
方法	・回収場所に Box を設置し、児童、生徒、学生、保護者、教職員に食品の寄付を募った ・実施前・実施後に広報活動を行った

今年度は、各附属学校園におけるフードドライブの広報活動や、フードドライブを題材とした教育に OCHA-SDGs 学生委員が協力した。また、大学フードドライブの実施にあたり、企画・運営・広報の実働を担った。



大学フードドライブのポスター

学生委員による附属学校園の広報活動、教育等への参画内容の一例

幼稚園	・登園時に回収時間・回収品などについてポスターを用いて説明 ・保護者と協働して収集された食品の集計作業
小学校	・6年生を対象にフードドライブ勉強会の開催
中学校	・実施主体の委員会活動への参加 ・目的・姿勢の共有、ポスター作成・修正、ボックス設置・回収
高校	フードドライブに関する学習動画（学生委員作成）の提供



学生委員が作成した動画のサムネイル

11. 生協とプラントベースドフードメニュー開発・販売

OCHA-SDGs 学生委員会（食班）メンバーが、Ochas（本学公式サークル）と連携しプラントベースドフードメニューを3品試作した。生協食堂へ提案した結果、ランチメニューとして採用され、2023年12月～1月に数量限定販売が実施された。

メニューの選定にあたっては、学生委員会とOchasのメンバーによる素案と、夏休みに学内で実施した生協食堂昼食営業についてのアンケート結果を参考にした。本学学生をはじめ、附属高校生、教職員も含む学内者約350名の回答が集まり、結果を矢葺専務理事へ共有した。学生委員とOchasメンバーによる候補3品の試作過程では、11月に3回、生協の承諾のもと食堂キッチンを利用し、各回で調理したものを矢葺専務理事に試食いただいた。さらに別日には、実際に食堂スタッフが試作したものを学生が試食し、更なる要望をフィードバックした。量や価格、味（調味料）の調節について最後まで相談し、最終的に以下の3品が生協食堂で提供された。（昼食営業時間のみ）両期間とも購入者アンケートも行ったところ、回答者の83%が今後もプラントベースドフードメニューを期待していることが示された。



取組のポスター（学生委員作成）

販売期間とメニュー名

販売期間	メニュー
2023年12月18日（月）～ 22日（金）	・ライスマルクのかぼちゃスープ（25食限定/1日） ・ソイリーボールの甘酢炒め（40食限定/1日）
2024年1月29日（月）～31日（水）	・ほっこりぼかぼか しょうが香るソイミートの水餃子スープ（15食限定/1日）

12. OCHA-SDGs カレンダーの制作

OCHA-SDGs 学生委員会 ESD 班がその月の国際デーを紹介するカレンダーを毎月発行し、学内 SNS「Ochat」でのオンライン配信または附属図書館掲示板での掲示（紙媒体）を行った。また、附属学校園にメール送付または紙媒体でお渡しし、各附属学校園内で児童生徒の目につくところに掲示いただいた。9 月には附属中学校から挿絵の提供があり、OCHA-SDGs カレンダーを中学校と大学が連携し作成した。国際デーの解説文は担当の学生委員が自身で集めた情報から執筆している。2023 年 1 月から 12 月のデータを揃え、2024 年 3 月には 2024 年度版 OCHA-SDGs 卓上カレンダーを作成した。国連の定める国際デーを学生委員自身の目と頭で選び文章でまとめた本カレンダーは、来年度以降の OCHA-SDGs 学生委員会の教育に関するアクティビティを支える品となっている。



OCHA-SDGs カレンダーの一部（2023 年 5～7 月分・学生委員作成）

13. LGBTQ 居場所づくりのサポート

本研究所から教育助成を行った石丸径一郎教授の指導学生の卒業研究を、学生委員会がサポートした。具体的には、研究対象として居場所イベントへ参加したり、学生委員内外での広報活動に努めたりした。居場所イベントへ参加することで、参加した学生委員自身も、LGBTQ+への関心を深めることができ、有意義な機会となったとの声があがった。

14. OCHA-SDGs 学生委員会・お茶大版気候市民会議 ステッカー等作成

OCHA-SDGs 学生委員会とお茶大版気候市民会議が協働し、節電ステッカーを作成した。『お茶大版気候市民会議』は、昨年度の三菱 UFJ 環境財団による授業である（2022 年度事業報告書参照）。授業を通じた最終的な提言内容が学生懇談会で学長などに報告された結果、提言の 1 つであった節電ステッカーについて、制作と学内での掲示が承諾された。併せて OCHA-SDGs 学生委員会が作成していた水道水マップと給湯室ポスターについても、学内での掲示が了承された。（水道水マップについては p9. 7. 給水マップ制作参照）



作成したステッカー（2種）とポスター

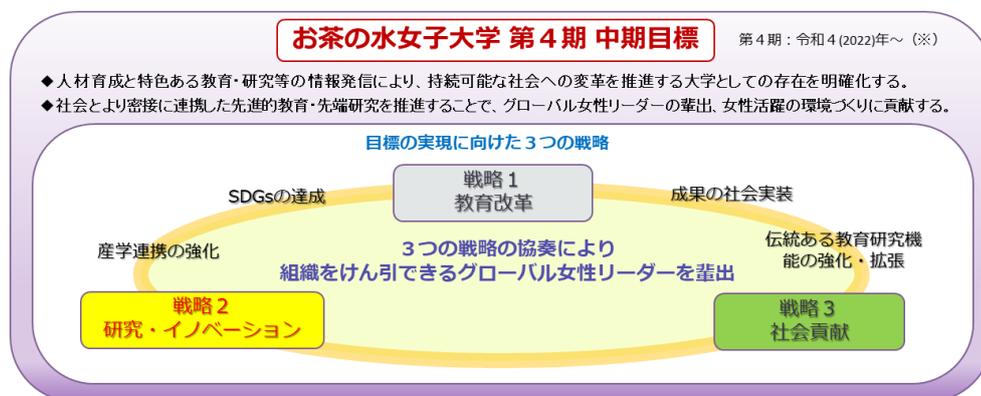
Ⅲ. 付録（お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所の概要）

1. SDGs とは

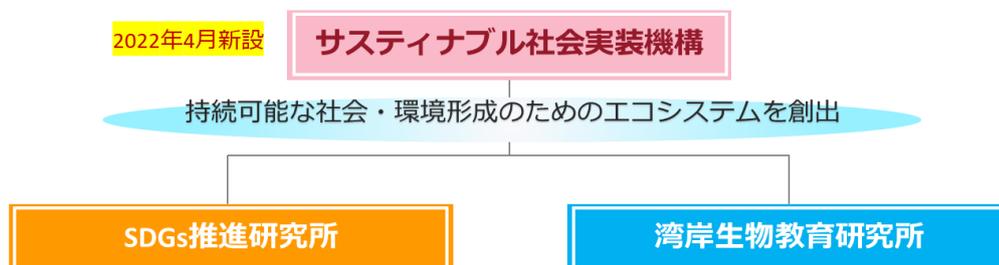
SDGs とは Sustainable Development Goals（サステイナブル・ディベロップメント・ゴール；持続可能な開発目標）を表す。2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された2030年までによりよい世界を目指す17個の目標と169の具体的な行動からなる。地球上の「誰一人取り残さない」という理念のもと、開発途上国と一緒にあって先進国も積極的に取り組んでいる。

2. 研究所設立の経緯

設立以来「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションとして掲げ、女子の高等教育と高度人材の輩出に貢献してきたお茶の水女子大学の理念はSDGsの目指す理念と合致するものである。持続可能な社会の創成には、社会全体でSDGsの達成を推し進めることが必要であり、そのために行動できる人材の養成が急務であることから、SDGs教育・研究プログラムを企画・実行していくための組織「サステイナブル社会実装機構」が2022年4月に新設された。サステイナブル社会実装機構は、SDGs推進研究所と湾岸生物教育研究所の2施設から構成される。



戦略2：大学の伝統・特色を活かし持続可能で質の高い生活を目指した研究・イノベーション



（※）中期目標：文部科学大臣が6年間にわたって国立大学法人が達成すべき業務運営に関する目標を中期目標として定め、これを国立大学法人に示すとともに公表するもの。第1期 平成16(2002)年度～、第2期 平成22(2010)年度～、第3期 平成28(2016)年度～

サステイナブル社会実装機構及びSDGs推進研究所設立の経緯

3. 研究所の組織構成

研究所は学内の教員や客員研究員から構成され、研究所の役割は、下図のように、研究部門、教育部門、企画・調整部門として3つに分けられている。研究部門で行われる研究を、教育部門において大学や附属学校園の教育に展開していく。さらに、企画・調整部門においては、SDGs活動の支援、広報、学内外の連携調整のほか、THEインパクトランキングエントリーへの対応を行う。これらの3つの役割全体を統括することで、研究成果や教育実績を社会実装し、本学におけるSDGs推進を機動的に進める。

4. 研究所のミッション

持続可能な未来の構築に向けて世界的な動きが加速する今、SDGs推進研究所は、本学の特色である生活科学を中心とした研究実績を社会に実装するための統合拠点となると同時に、高い問題意識・率先した行動力を持つ未来のサステナビリティリーダーとなる人材の育成を担う。本研究所を起点として、SDGs教育・研究プログラムを企画実行し、地域社会・民間企業・各種機関と連携し、社会全体でSDGsの達成を推進する人材養成を行う。

SDGs推進研究所では、お茶の水女子大学で展開されるSDGsに向けた諸活動を「OCHA-SDGs」と名付けることとした。このSDGs推進研究・活動のキーワードは「生活者」である。SDGsの実現には長期的な視点のもと、生活者一人一人が足元から着実に推進していくことが重要と考えたためである。まずは、食品ロスや資源リサイクル、エコシステムや行動科学、消費者教育といった身近なテーマに基づき、SDGsに関心の高い学生委員と共に、持続可能な社会への貢献を目指した生活者起点の研究・活動を推進中である。



OCHA－SDGs 学生委員会 活動報告

2024 年 7 月

発行：お茶の水女子大学 サステイナブル社会実装機構 SDGs 推進研究所

〒112-8610

東京都文京区大塚 2-1-1

Tel : 03-5978-2568

Fax: 03-5978-5766

E-mail : sdgs-office@cc.ocha.ac.jp
